

◆ 今週のコメント

- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、2.68(110例)で、先週に比べ増加しています。5歳ごとの割合では、0～4歳が53.6%(59例)と最も多く、次いで5～9歳が18.2%(20例)、10～14歳が13.6%(15例)となっています。
冬の感染症にそなえ、「正しい手洗いの方法」について、「京都市こどもの感染症 11月号」(京都市衛生環境研究所作成)で取り上げています。下記URLからご利用ください。
(<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000007130.html>)
- ・ 流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は、0.78(32例)で、増減を繰り返していますが、第4週(1月25日～31日)以降、過去5年平均値を上回る状態が続いています。

◆ 今週のトピックス: <伝染性紅斑>

伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.46(19例)で、3週連続して、この時期の過去5年平均値の3倍以上となっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 五類:アメーバ赤痢(腸管外アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 15例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	2.68	110
	② 流行性耳下腺炎	0.78	32
	③ 突発性発しん	0.54	22
	④ 伝染性紅斑	0.46	19
	⑤ 水痘	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

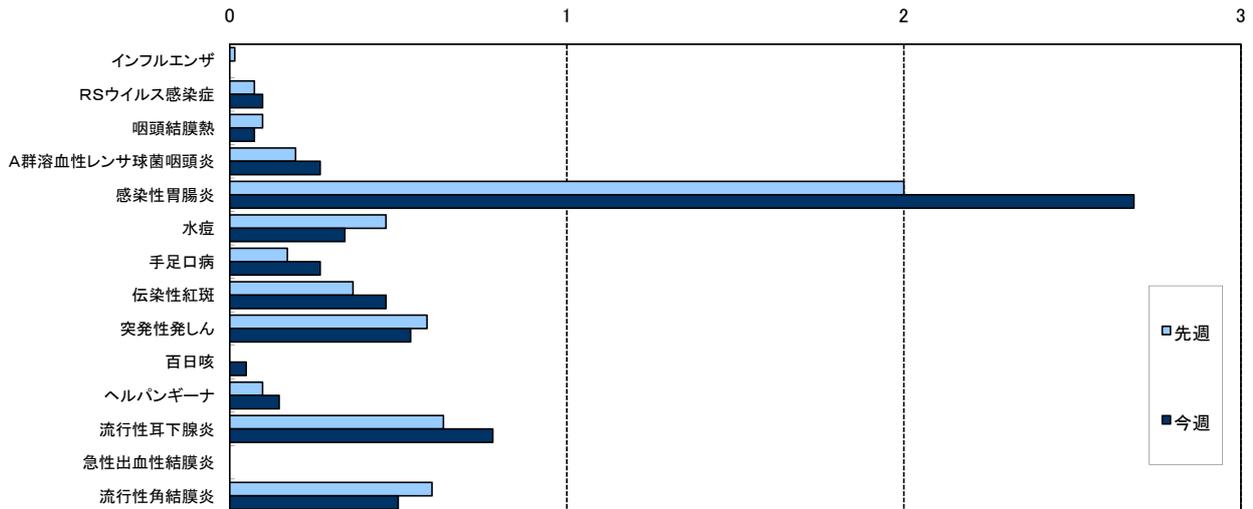
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <伝染性紅斑>

(注) 京都市のデータは、平成22年10月28日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

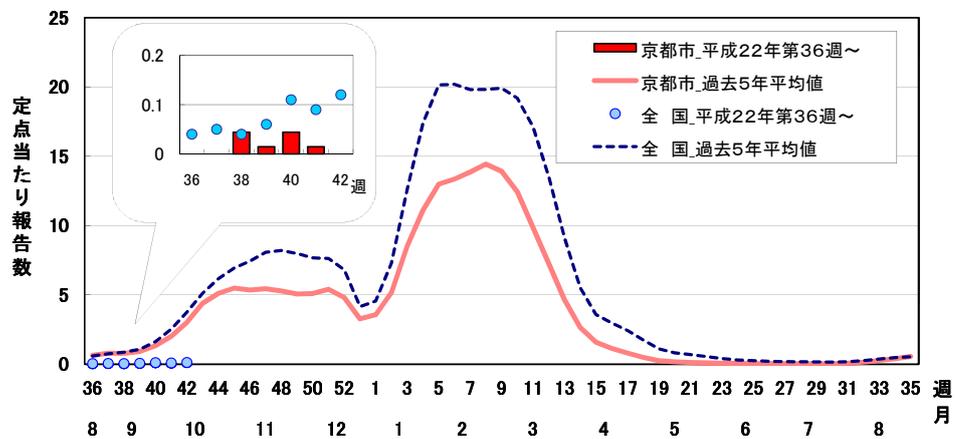
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第42週)と先週(第41週)の定点当たり報告数の比較



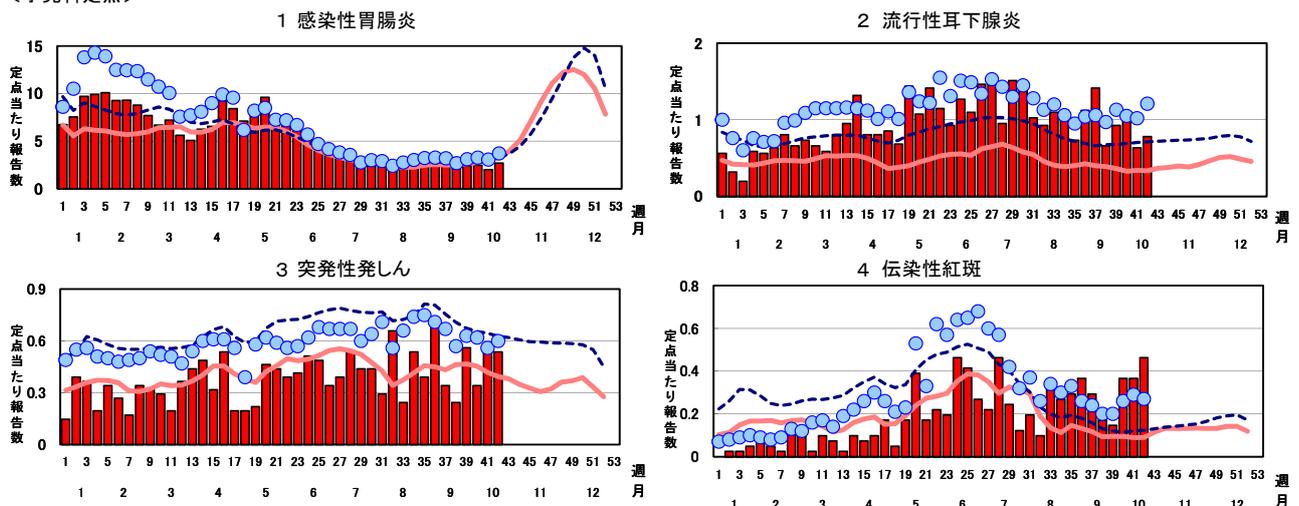
2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第38週	3
第39週	1
第40週	3
第41週	1
第42週	0
累積報告数 (第36週以降)	8

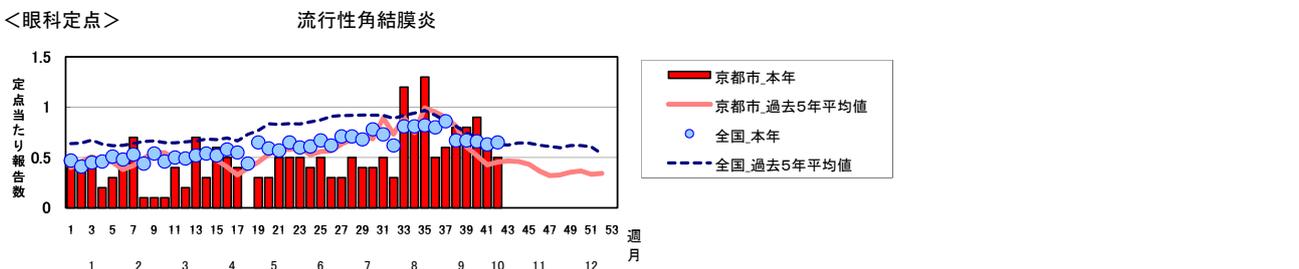


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>

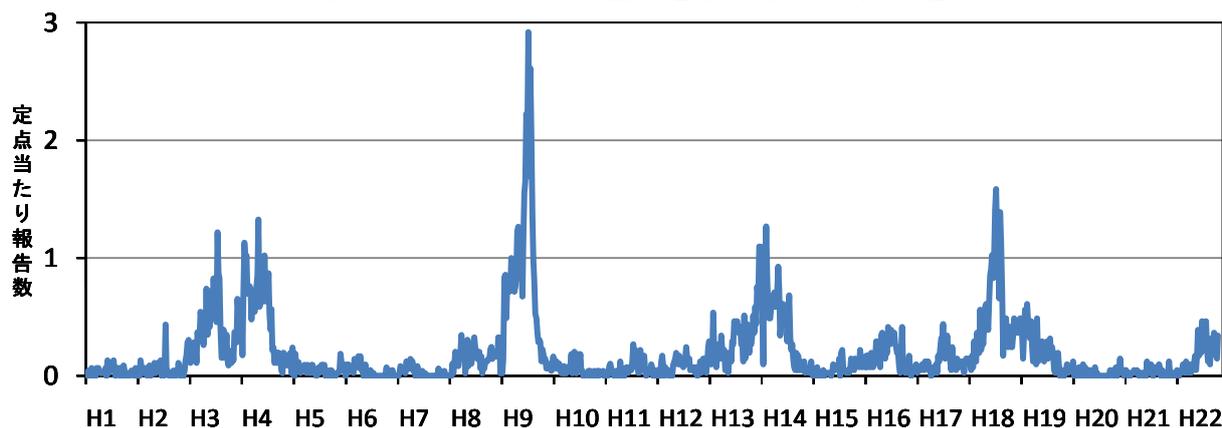


第42週(10月18日～10月24日)トピックス: <伝染性紅斑>

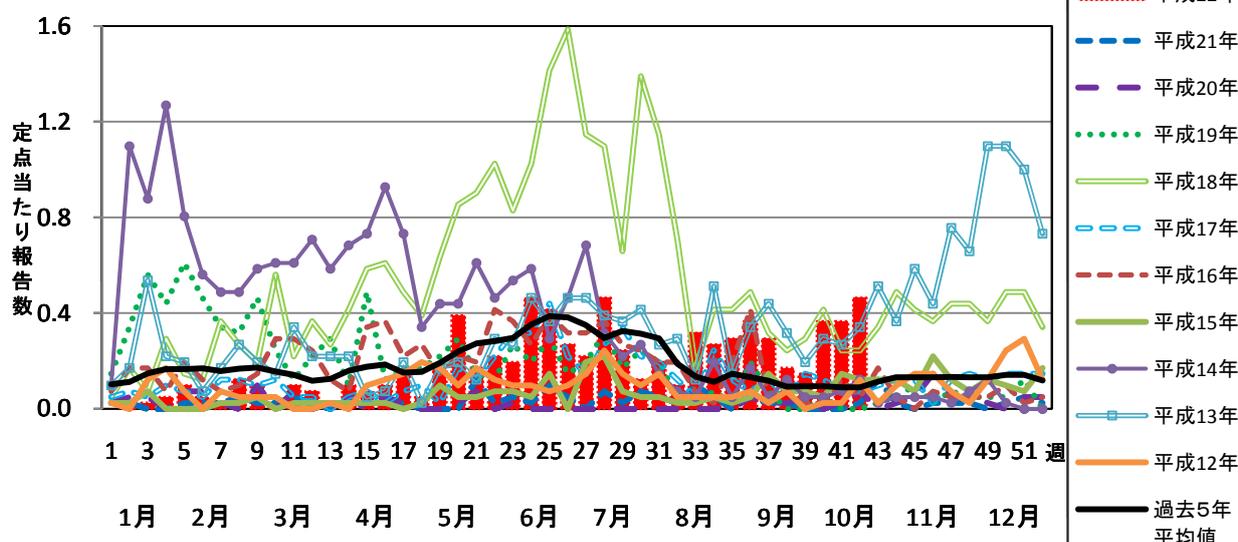
伝染性紅斑の定点当たり報告数は、0.46(19例)で、3週連続して、この時期の過去5年平均値の3倍以上となっています。過去20年間の定点当たり報告数の推移をみると、平成3～4年、平成9年、平成13～14年、平成18年と、4～5年周期での流行がみられます。本年は、5月～7月に報告数が多くなった後、第33週(8月16日～22日)からは過去5年平均値を上回る状態が続いていますので、今後の動向にご注意ください。

年齢階級別では、3歳と5歳が各5例(26.3%)、6歳と10～14歳が各2例(10.5%)となっています。

平成元年～平成22年第42週の定点当たり報告数の推移



平成12年～平成22年第42週の定点当たり報告数の推移



年齢別定点当たり報告数の推移

